

母子保健研修会 in 愛知県

「母子保健事業(計画)の scrap and build はいかに行うべきか？」



2003年12月1日(月)

(会場：学校法人電波学園あいち福祉専門学校)

主催 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業
「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの
構築に関する研究」班

主任研究者 山縣然太朗 (山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学 講座)
あいち小児保健医療総合センター 母子保健データベース研修会企画委員会

1. 趣旨・目的

市町村において母子保健計画を展開する中、予算等から効率的な事業の推進とその成果が期待されている。健やか親子21の理念に基づき、母子保健計画の目標達成に向け、地域住民のニーズに応じた事業を展開するためには、既存の母子保健事業をいかに評価し、事業の再構築をするための技術等が必要となる。

この研修は、事業の評価方法、情報の収集分析、事業の再構築の手法等について考え、実際の事業実施に繋ぐ手法を学習することを目的とする。

2. 対象

愛知県内の市町村保健師、愛知県保健所保健師

3. スケジュール

*午前の部(9:30~12:00)

1. 開会の挨拶

2. 講師紹介 山縣然太朗 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学 講座教授
松浦 賢長 福岡県立大学地域看護学教授
玉腰 浩司 名古屋大学大学院医学研究科健康社会医学専攻
社会生命科学大講座公衆衛生学講師

近藤 尚己 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学 講座助手

山田 七重 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学 講座

葉袋 淳子 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学 講座

3. 講義とグループワーク：母子保健事業における scrap and build の考え方

4. 感想用紙記入

*午後の部(13:00~16:30)

1. 講義とグループワーク 「取り組みのデータベースの活用を考える」
現場でデータベースを役立てる際、どんな情報が必要になるのか、
事例を通して検討します。

2. ワークショップ
自身の地域のデータをについて、必要な情報が掲載されているか、
という視点でふりかえり、実際にデータの登録や修正を行います。

3. ディスカッション

4. 閉会のことば

5. 感想用紙記入

構成

参加者 愛知県内保健師 50 名

9グループ作成

1G：4名 尾張市 豊田市 瀬戸市 豊明市

2G：5名 蒲郡市 田原市 津島市 豊山市 一色市

3G：5名 江南市 春日井市 長久手町 東浦町 足助町 知立市

4G：6名 豊田市 小牧市 岡崎市 西枇杷島町 尾西市

5G：5名 半田市 七宝町 犬山市 幸田町

6G：5名 豊田市 美浜町 稲沢市 新城市 吉良町

7G：5名 春日井保健所 津島保健所 半田保健所 師勝保健所

8G：5名 半田保健所 加茂保健所 江南保健所 西尾保健所 衣浦東部保健所

9G：6名 一宮保健所 春日井保健所 瀬戸保健所 豊川保健所 新城保健所

1. 9:30～主任研究者あいさつ（山縣）

講師紹介

2. 9:40～「母子保健事業の Scrap and Build」についてプレゼン（PPT 使用） 別紙参照

3. 9:55～Ice Breaking 各グループごとに保健師になって感動したことをまとめる。

10:05～発表 1G 2G 3G

- ・ 援助した際に大変喜んでくれた時！
- ・ 自分の訪問で家庭と繋がりができた時！
- ・ 視野が広がる。
- ・ 感謝された時。
- ・ ケースが保健師を覚えていてくれた時。
- ・ 人との出会い。
- ・ 地域で広い視野でみることができる。
- ・ ケースに喜んでもらった時。
- ・ 子どもの成長をみることができる時！



4. 10:12～事業評価はなぜ必要か？各グループごとにまとめる。

10:20～発表 4G

- ・ 改善する目的に評価が必要である。
- ・ 効果の検討。
- ・ 予算の確保
- ・ 事業のレベルアップ。
- ・ マンネリ化予防。
- ・ 予算を効果的に使う。
- ・ スタッフの増員要求できる。



5 . 10:25 ~ まとめ 下記項目ができているか？

- ・ 実施報告（上司への報告）半数できている
- ・ 目的達成 少数できている
- ・ 継続必要性 半数以上できている
- ・ 改善の余地 半数以上できている
- ・ 住民への説明 少数できている
- ・ 新事業の基礎資料 半数以上できている



6 . 10:50 ~ グループでの実際の事業評価開始。

11:20 ~ 発表 7G 8G 9G (OHP 使用)

1 班

評価

- ・ パパママ教室（尾張旭市 母親教室）

実施経過評価

- ・ 計画通り
- ・ 利用状況 初産婦 4 割、経緯 5%
100 × 来ても対応できる
ハイリスク（若い群 etc）への働きかけ要
- ・ トラブル なし（気分悪い人への対応あり）
- ・ スタッフ反応 助産婦... 諸儀中人の行き来あり
- ・ 関係機会直携 年に 1 度助産婦との話し合い

2 班

思春期事業

問題点：喫煙・飲酒率 10 代妊娠

目的： 1 . 学校とのつながりをつけるため、思春期の授業を立ち上げた
2 . 子ども自身が自己決定できる

方法：小学校、中学校から依頼のあった学校を対象に、
クラス授業 学校保健委員会 学年全体授業
（アンケートは学校の養教が作成したものを使用）

実績：（H14） 小学校 1 喫煙
 中学校 1 喫煙・性教育
 （H15） 小学校 2 生活習慣、喫煙
 中学校 2 喫煙、性教育
・ 母子保健計画を校長会と各教部会に出した。

評価： ・（トラブル）学校より依頼 すすめ方、内容が学校（校長）と折り合わない。
 内容が具体的に伝えられない。
 ・（トラブル）日程調整が難しく、準備に時間がかけられなかった。
 内容が満足するものにできなかった。
 ・ 感想だけで終わってしまった。
 ・ 事前アンケートと、数ヵ月後の事後アンケートができるよかった
 ・ 目的 1 まで達成できた。

3班

母子保健に関する課題で“育児不安”

事業名

- ＜新米ママの栄養教室＞
- ・初産婦対象の栄養教室
- ・隔月1回
- ・参加者数は10人～20人

東浦市

- ・年4回実施
- ・初産婦と限っていない
- ・妊婦の交流めざして
- ・通知送っても参加者は10人程度（毎回）

江南市

- ・4回コース（2ヶ月で4回しています）
- 4回中1回は栄養の話
- 妊婦の交流の場になっている
- ・助産師の話の会 人気
- ・栄養教室は予約制。
- 栄養教室の回、参加者数減る
- 40人/回 参加

母子保健...すぐに結果でないため 評価難しい。

5班

幸田町 親子教室について（健診事後教室）

事業経過評価

参加者数増加

今年度2グループに分け、回数ふやした

参加者の増加により...

- ・母の相談に十分対応できず、参加者からも不安の声きかれていた（回数ふやし改善）

関係機関

- ・教室には専門職が参加
- ・子育て支援センターとの連携（+）
- ・療育施設の不足（参加者減らない）

スタッフの反応

PDDの増加、忙しい

7 班

< 低出生体重児訪問 >

目標：育児支援、児の状況の確認

対象：2500g 未満で出生した児、36w 以下

計画：対象者の状況の 100%把握（HV、tel 等）

実績：H14 年度 対象の 75%

未把握の 25%は手紙等で HV の連絡をし、HV するが会えないケースなど。
ほぼ 100%にアタックしている

評価：計画通り、進捗している

利用状況...75%

事業を障害するもの 連絡しても返事がこない 不在

関係機関との連携 ... 連絡会議を持っている

8 班

虐待防止対策事業（ほっと・はーと・めいと クラブ）

- ・経緯 : 虐待が増加。虐待になる前にどうにかならないか。
- ・対象 : 子供を叩いてしまう。子供が可愛くない。育児不安がある人。
- ・実施内容（今年で 3 年目）: 6 回コース（各回テーマを設けて）
グループワーク（1h）母子分離
- ・周知方法 : 広報、市町・児相からの紹介
- ・参加状況 : 最高 20 組（予約電話は 1 日で満員になる）
平均 10～15 組
うち 3～4 組は継続の必要あり

事後 G へと発展 1 回 / M 全員出席
（ほっとはーとめいとへのピアになってもらいたい狙いあり）
- ・スタッフ 保健師 心理士（親 G）
保健師 保育士 主任児童委員（3G）
（終了後、スタッフで話しあい）
- ・実施経過評価
 - ・計画通り ・利用状況も良好
 - ・トラブル - 母のニーズ（保健師に教えてもらいたい）
（問題点）とズレあったケースあり ミニ講話（11 修正）
 - ・スタッフ - 気になる子と母が一致。
思った以上にせっぱつまった母が多かった。
転勤族が多く元々のグループに入れず悩んでいる人も多い

9班

事業 「低出生体重児家庭訪問」

・計画通りか

対象 2000g 以下全員訪問 - H14 年約 60 件うち 49 件訪問 80%

把握方法...届出八ガキ + 連絡ない者へ tel 72 件

手紙...他 tel

未訪問者 tel 市町村と連絡

・トラブル - なし

・スタッフの反応 - 忙しい

・連携 ... 良 (医療機関)

市町村 助産師とは良

開業医と助産師との連携は不十分

・他事業 ... 虐待予防事業との関連

- ・トラブル - 母のニーズ (保健師に教えてもらいたい)

(問題点) とズレあったケースあり ミニ講話 (11 修正)

- ・スタッフ - 気になる子と母が一致。

思った以上にせっぱつまった母が多かった。

転勤族が多く元々のグループに入れず悩んでいる人も多い



*時間の不足によりまして、おまとめいただけませんでしたグループの皆様にお詫び申し上げます。今後、お役に立つことがございましたら、ご連絡いただきたいと思います。

G8 ほっと・はーと・めいと クラブ

- ・ 虐待があつてからでは保健所も対応できないので、事業化したいときには1次予防、0次予防の虐待対策が大事。
- ・ 虐待をする危険性のある人は自分で分かっているのかもしれないので、その人たちに「何か」をして予防する。

Q.この事業は具体的にはどのようなことか？

A.

- ・ 1回目は自分の育児について、夫婦関係、環境など全てをテーマに話し合う。
- ・ 自分が今どのような状況に置かれていて、自分がどのように考えているかと言うことをおもてに出すため。

Q.それは何故？

A.

- ・ 人の話をきいて覚えることは色々な機会であるが、自分の意見・思いを吐き出して、人の話を聞いて、自分の心の中で整理することが大事なので。
- ・ グループの中に入った時、保健師も一母親となり、自分の子育てのことを話す。
- ・ 保健師が話すことによりお母さんたちも安心感になったと後で感想をもらった。
- ・ 目的は、自分の言葉に出してみても、人の話を聞いて、自分だけではないのだと整理してもらうこと。
- ・ 第1回目の目的は今の自分の置かれていることを表現して、共感できる相手を見つける。
- ・ 2番目の実現要因は、場を提供することにより、自分が置かれている状況が特殊でもなければ、自分だけではないのだということを意識してもらう。
- ・ 事業として評価は、目的が共感する相手を見つけてもらうことなので、母親の感想に「共感できた」と入ると、合格点となる。
- ・ 参加したが出来なかったという人にとっての評価は低くなるので、相対としての評価を出すことが出来る。
- ・ 出来なかった人は、どうしてそこで自分の思いを言えなかったのか？という理由を明らかにすれば、次への改善になる。

Q.第2回目は、何？

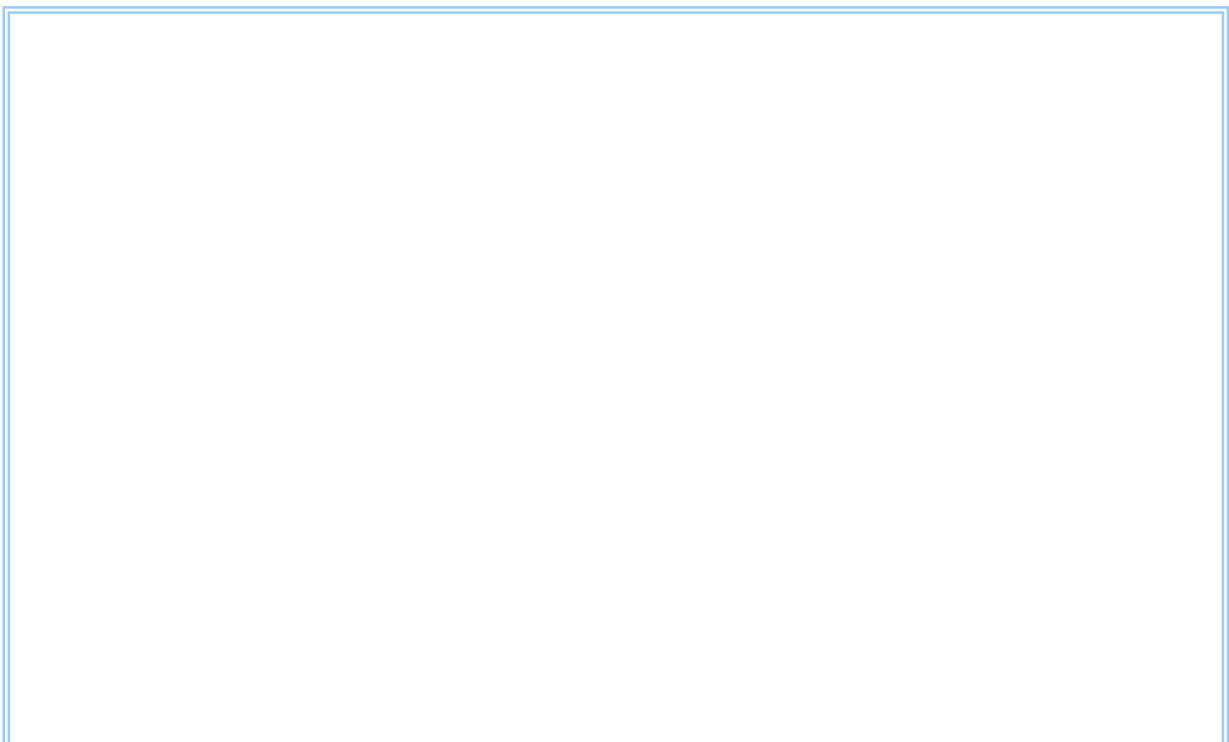
A.

- ・ グループを始める前に、「ここで話すことは絶対に外には漏らさない」と約束をしてからテーマを決めてずっと話す。
- ・ 1つずつテーマを決めて話す。それを6回繰り返す。
- ・ 話し合いの中で保健師、心理士はアドバイスをしないことが前提なので、アドバイスはしない。良い悪いは言わない。
- ・ アドバイスをしないことに目的があると良い。
- ・ 共感する人がいて、自分のことを話せても、家に帰れば子どものことを叩いてしまうかもしれないように、共感できても問題が解決しないことがあるかもしれない。
- ・ 解決できない人には次のプログラムを用意しなくてはならない。
- ・ 一つの中で全部のことをする必要はない。
- ・ アドバイスを求める人は一段階が出来ていないから求めるのかもしれない。
- ・ 共感できることによってほとんどのことは解決するのだと思う。
- ・ このような事業は、やることによって虐待の防止になるのだという根拠がある。
- ・ さらに次へという人に次のプログラムを用意しなければならないということは、この事業を行った1つの成果である。この評価から次の新しい事業の資料になる。

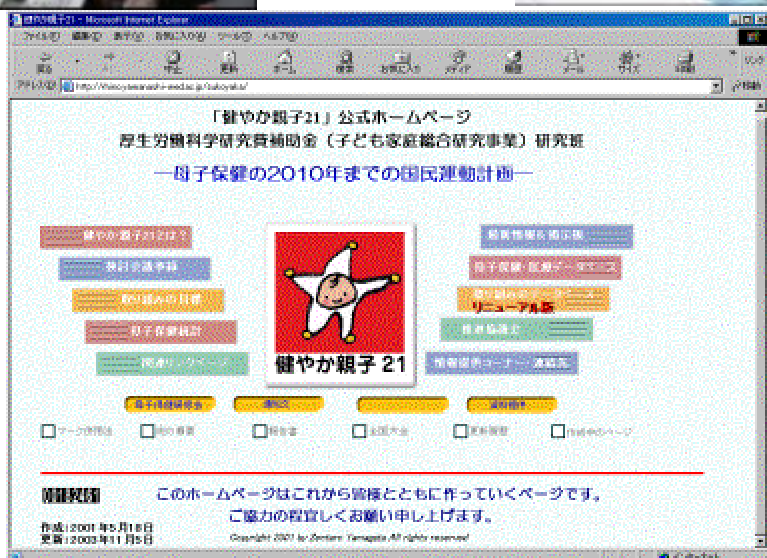
- ・ 評価はアンケートなどにより数字に出る。数字が出ることにより、住民の行動まで早い段階で評価できるかもしれない。
- ・ 対象者、参加希望者が多い事業をもっと広げていかなければいけなくて、そのためには予算化する必要がある。
- ・ 何も知らない人に説明する方法は、標準的な同じレベルの話をする。その為には評価、目標を明確にして、どう達成できたかを話す。

総合評価

- ・ 最初の事業計画の際に何を目標にするか、何をねらいにするかということをはっきりとしない、評価は難しい。
- ・ 計画 plan、実施 do、見直す see という流れを、最初に全部予定しておくことで評価出来る。
- ・ 総合評価はできるか？評価項目は全部そろっているか？ということは大切なこと。その次に評価項目の重みづけができる
- ・ 評価するのに重視すれば良いものは以下、1.実績そのものの評価、2.要因、3.住民の行動・環境を改善したか、4.健康指標 **さてどれが一番大切でしたか？**
- ・ 虐待防止予防の事業のように、事業をする時にねらいは当然あるはず。それを言葉にすることが大事。
- ・ 2.要因は、変えたいと思っていることが変わったかが第一の評価。その結果として、住民の行動が変わり、行政そのものの目標、改善が直接変わる。
- ・ 住民の行動や結果としての健康指標を改善するには、最初の要因に対するアプローチが成功したかどうか。上手くいかないものは問題があると考えたい。
- ・ 総合評価をやってみるが、出来ない人はなぜか？要因以降の評価は難しい、最初に設定がない、後から考えようとする為に資料がない、が挙げられる。
- ・ 色々なことには、短期、中期、長期の効果があるが、短期の効果は見せなければだめである。
- ・ 事業は「10年かけてここを目指す、1年でこれをやる」ということが大切。その上で、事業の優先順位を付ける。
- ・ 事業の優先順位を決めることにより、縮小する事業、辞める事業を決めることが出来る。



「健やか親子21」公式ホームページ「取り組みのデータベース」研修会



「健やか親子21」公式ホームページ
<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>



研修会にご参加された皆様へ

研修会へのご参加ありがとうございました。

その後、「健やか親子21」取り組みのデータベースはご活用いただいておりますでしょうか？

今後全国の保健師の皆様が有効利用できるものになって欲しいと願っております。

また、メーリングリストも是非ご活用ください。

今後とも何卒よろしく願いいたします。

... 研究班より

...